



東京五輪ホストタウンの縁

東ティモール身近に
伊那で水彩画展開幕

2020年東京五輪・パラリンピックで、東ティモールの選手らと交流するホスト

タウンに登録されている伊那市で14日、「東ティモール絵画展」が始まった。首都ティリにある教育施設に通う14〜30歳の男女20人が描いた

東ティモールの14〜30歳の男女が描いた水彩画20点が並ぶ会場

水彩画20点を、市役所1階ロビーに24日まで展示している。

教育施設は同国の首相夫人が運営。100人ほどが言語やコンピューターを学んでいる。伊那市高遠町出身で日本東ティモール協会（東京）会長の北原敏夫さん（71）が首相夫人と親交があり「東ティモールの今を伝えて」と水彩画

の制作を依頼。20人は初め

て絵を描いた人も多く、同国の象徴とされるワニや、街や海辺の風景、現地の教会や花などを思い思いに表現した。伝統的な織物「タイス」や首相夫人のメッセージも並

同国は02年にインドネシアの支配から独立。北原さんによると、児童たちは家業を手伝ったり、弟や妹の面倒を見たりするために6年制の小学校に平均して12年通うと

いう。主な産業がまだなく海外への出稼ぎ労働者も多い。今後は若者の来日も予想されるといい「伊那の人が東ティモールを身近に感じる機会になればうれしい」と話している。

信濃毎日新聞
2019年5月15日付